



株式会社 ビーアンドピー

株式会社 ビーアンドピー

● 東京本社所在地

東京都港区新橋5丁目10-5
HOUTA新橋510ビル 4F

● 主な事業内容

インクジェット出力によるサインディスプレイ制作
デジタルサイネージソリューション
3Dプリントサービスなど

● 設立

1985年10月

● URL

<https://www.bandp.co.jp/>

● 導入システム

Automation Engine



株式会社 ビーアンドピー
代表取締役社長
和田山 朋弥 氏



株式会社 ビーアンドピー
執行役員 事業開発本部長
中村 祐輔 氏



株式会社 ビーアンドピー
東京制作 課長
野崎 正記 氏



株式会社 ビーアンドピー
3Dスタジオ 係長
佐藤 大介 氏

Automation Engine導入後

作業ミス35%削減、効率も格段アップ

大型インクジェット出力サービス事業を主力とするビーアンドピーは、ESKOワークフロー自動化ソリューション「Automation Engine」の導入によって短期間のうちに作業ミスの大幅削減や効率化を実現。自動化によってミスを35%減少、作業効率もアップし、オペレーターの負担軽減にもつながった。同社強みの最新設備にAutomation Engineが加わりサービス強化が進む。

【導入背景】

さらなる事業強化のため「自動化」に着手

ビーアンドピーは大阪・東京・横浜・名古屋・福岡の都心部を拠点に大型インクジェット出力サービスを展開している。24時間体制の充実した最新設備のもと「短納期・ワンストップサービス」を強みに成長を続けており、19年には東証マザーズに上場。今春21年3月には主力事業のインクジェット出力サービスに加え、デジタルサイネージ分野への進出を発表するなど積極的な事業拡大を進めている。こうして勢いに乗る同社だが、代表取締役社長の和田山朋弥氏は「ここ1年はサービスのさらなる強化や作業効率の向上を目指して、すべての作業工程をソフト・ハード両面から見直し、ボトルネックのあぶり出しを行つてきた」という。その結果、「シンプルだが手作業によるデータ操作を可能な限り省き、付随する人的ミスを減らすことがサービス強化に不可欠とし、ソフトによるワークフロー自動化に着手することを決めた」(和田山氏)という。同じく和田山氏によれば、ハード面からのアプローチも考えたが、多品種小ロットが常であるインクジェット出力では取り扱う材料の種類も多く、搬送システムなどを取り入れたとしても一律的なハード構成で対応するのは非現実的と判断したようだ。導入する自動化ソリューションの選定については「約1年前から複数の製品を対象に検討をはじめ、半年を過ぎた頃からESKOのAutomation Engineに絞って検討を重ね導入に至つた」(執行役員事業開発本部長の中村氏)という。最終的な決め手として「テスト導入で作業効率の向上が確認できたこと、なかでも人的なミスが明確に減ったことを重視。また複数メーカーが混在する加工機へのデータ連携にも柔軟に対応してくれたこと」(中村氏)をあげている。

【導入・運用プロセス】

全ジョブの5割自動化、オペレーター全員の習得進める

20年12月にAutomation Engineは東京都港区にある同社東京本社へ導入された。導入および運用にあたっては、専任オペレーターを数名選出、操作習得をはじめAutomation Engineへ登録するジョブの選別を進めていった。「ジョブの選別には多少時間を要したが、基本的に面付け作業を含むジョブを対象に登録の可否を判断していく。Automation

ESKO

Engine導入後4ヶ月間のトータルジョブ数は約35,000であつたが、そのうち約半分で活用した」(中村氏)という。すべてのジョブが対象となるわけではないが、リピート案件を考えると登録作業も短縮され運用スピードもあがつてくるに違いない。

操作の習得については、最終的に出力担当のオペレーター全員が使えない意味がないとし専任スタッフを中心にOJT形式で習熟度を上げているところだ。オペレーターの習得度が上がるにつれAutomation Engineの活用の幅も広がりMIS(経営情報システム)やERP(統合基幹業務システム)といった外部システムとの連携も視野に入ってくるだろう。「現状はMISとの連携には対応していないが、いずれ連携してジョブ内容や数量確認などができるようになれば良い」(中村氏)という。



【導入メリット】

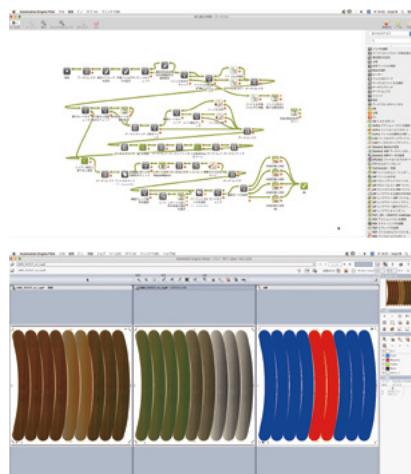
ミス35%削減、作業スピード向上、新人研修も容易に

インクジェット出力の長所の1つとして多品種小ロットへの対応力があげられる。しかしその分、作業数も多く複雑化しやすいため現場のオペレーターにかかる負担も増加。特に納期に追われる現場では人的なケアレスミスが起きやすい。同社も例外ではなく、人手を介することで発生するミスをいかに削減できるか苦心してきた。ではAutomation Engine導入によって、こうした課題はどの程度改善されたのか。結論からすると導入後半年足らずではあるが、明確な改善効果を実感できているようだ。

まず人的なケアレスミスが大幅に減っている。東京制作課長の野崎氏によると「例えばスーパーストアの商品案内を示すスチレンボードパネルの制作では表裏違ったデータを面付けするが、人だと表裏を逆にしてしまうミスがあつた。しかしAutomation Engineでは2つのデータを用意するだけで適正な面付けをしてくれる」と自動化のメリットを実感。そのほかでは「1つの案件でも複数の材料に応じて面付けを行うが、人だとデータの形状が似ているとカットデータを取り違えるミ

スがあつた。それもAutomation EngineではQRコードを読み込むので必然的に同様のミスはなくなる」(中村氏)という。同社調べではAutomation Engineの導入前と導入後ではミスの数は約35%削減。作業スピードについては数値化していないが、オペレーターが十分実感できるレベルで速くなったという。ジョブの内容によつては格段のスピードアップにつながるケースもあるようだ。

さらに「Automation Engineによって新人研修が容易になつた」(中村氏)という。印刷現場ではオペレーターのスキルの違いなどもあって新人教育に苦労するケースが少なくない。しかし多くの作業を自動化できるAutomation Engineをベースにした研修であれば、習得内容の簡素化そして習得までの時間も大幅に短縮することが可能だ。



【今後の展開】

Automation Engine、主力事業強化の原動力に

導入後短期間のうちに多くの改善効果が確認できたことでAutomation Engineはすでにビーアンドピーにとって必要不可欠な存在になりつつある。「現在、Automation Engineの導入は東京本社のみだが、このまま順調に導入メリットの確認が進めば大阪本店など、別拠点への導入も視野に入つてくる」(中村氏)と増設の可能性にも言及。同社サービスの強みに総勢70台超のインクジェットプリンタと加工機からなる最新設備があるが、今回Automation Engineによって「自動化」と

いう要素が加わつたことで競争力強化がさらに進んだ格好だ。

こうして主力事業の強化に努める同社だが、新規事業への取り組みも積極的に行つてはいる。今春21年3月、同社はデジタルサイネージ事業への参入を発表。同社の紙媒体によるインクジェット出力事業は堅調であるが、世の中のデジタル化の流れを受けサインディスプレイ分野でも紙からデジタルへの転換が進んでいるのも事実。紙媒体で培つたノウハウ活かしデジタルサイネージソリューション(DSS)の提供を開始した模様。「これまで同じクライアントの仕事でもインクジェット出力(紙媒体)は受注できるが、デジタルサイネージについては対象外とされてきた。しかし今回デジタルサイネージ分野に正式に参入することで紙もデジタルも一手に引き受けたい」(和田山氏)という。サービス開始に伴つては大阪本店と東京本社に体感型ショールームをオープン。リアルとデジタルを融合した新しい顧客体験や価値提供を行つていく予定だ。そのほかでは3Dプリンタを使ったプリントサービスを18年から開始している。3Dスタジオ係長の佐藤氏によれば「プリントサービスだけでなく、CADやモデリングソフトを使ってモックアップやフィギア制作の仕事も増えつつある」という。これからも新規事業に対して積極的な展開が見られそうだ。しかし主軸事業であるインクジェット出力サービスの競争力強化は常に欠かせないところ、その原動力としてAutomation Engineのさらなる活用が期待される。



エスコグラフィックス株式会社

〒135-0064 東京都江東区青海2丁目5番10号テレコムセンタービル西棟6階 TEL.03-5579-6295 FAX.03-5579-6296
〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満3-7-27 UX西天満ビル1階 TEL.06-6335-9815 FAX.06-6335-9816